

令和7年度第1回半田市図書館協議会議事録

開催日時	令和7年7月2日（水）	14時～15時40分
開催場所	半田市立図書館 第1会議室	
会議次第	1. 開会 2. 委嘱状交付 3. 正副会長の選任 4. 挨拶 5. 議題 ・報告事項 （1）令和6年度図書館利用状況等について （2）令和7年度事業について （3）図書館運営基本計画の策定について ・協議事項 （1）本の貸出し以外で「知識の拠点」として図書館ができること 6. その他	
出席委員 （欠席委員）	出席委員 会長 榊原肇、副会長 大矢里実 委員 北中美郷、山田康司、古川清孝、佐藤幸恵、加藤美智子、 間明田みどり、船戸淑子、齊藤裕美子 ※敬称省略、名簿順	
事務局	図書館長 藤井寿芳、副主幹 竹内由香、主査 岩本紀子、 主事 清水太土、主事 太田絢香	
	議事概要	
1. 開会		
2. 委嘱状交付		
3. 正副会長の選任	会長に榊原肇委員、副会長に大矢里実委員を選任。	
4. 挨拶	（会長） 図書館は、地域の皆さまにとって知識や情報を得るための大切な場であるとともに、学びや交流の拠点としての役割を担っている。 本協議会の役割としては、本図書館をより良いものとし、半田市民や地域に貢献できることがないかを協議していくことである。 本図書館では、先日新聞にも取り上げられたが、はんだ電子図書館内で電子雑誌の閲覧サービスが開始され、また、デジタルアーカイブとして古い郷土資料が閲覧できるようになるなど、新たなサービス提供もされてきている。 皆さまの貴重なご意見やご提案が、図書館の未来を形作る重要な一歩となる。どうか活発な意見交換をしていただきたい。	
5. 議事	・報告事項	

	(1) 令和6年度図書館利用状況等について (事務局) ・ 令和6年度図書館利用状況等について事務局より説明 (榊原会長) ・ 事業を実際に行っている団体の皆さんにお話を聞いていきたい。 (委員) ・ 本館では土曜日の14時30分から、亀崎図書館では11時から読み聞かせを行っている。 ・ 読み聞かせの場所について、試行期間や図書館との話し合いも経て、エントランスホールからコロナ禍前と同じ館内の絵本コーナーで行うこととなった。 ・ 亀崎図書館では会場が小さいこともあり、館内で来場者と近い距離で読み聞かせができています。 ・ お父さんの読み聞かせ会は、きりんの会の男性会員が行っていて、雰囲気の違いがあり、また、ご家庭での育児参加にもつながっていると感じる。 ・ ブックトークができる会員を増やしていきたい。会員の中でもブックトークの手法については今後の課題となっている。 ・ 7月5日(土)のとしょかんまつりに向けて会員一丸となって準備を進めている。 (委員) ・ あんころもちとして実施しているちいさいちいさい読み聞かせ会は、大型絵本などではなく、みなさんが実際に手に取ってもらう絵本を使って読み聞かせをしている。また、手遊びなども含めて活動をしている。 ・ ちいさいちいさいお楽しみ会も年に2回行っている。今年度は5月24日(土)、10月18日(土)に開催する。 ・ 7月5日(土)のとしょかんまつりで「みんなのねがいごと」というテーマで七夕にちなんだ新作を上演する。ぜひみなさんにも見に来てほしい。 ・ 5月にボランティアの養成講座を実施したが、2名のボランティアが増えて、あんころもちとしてはうれしいできごとだった。 ・ 成岩児童センターや有協児童館、更生保護女性会の子育てサロンなどに要請があると出向いて、読み聞かせやパネルシアターなどの上演を行っている。 ・ あっぷっぷでは、チラシを作成して出生届の提出時に配布してPRを行っている。これにより3か月児健康診査のあかちゃんとしょかんに積極的に参加してもらえよう取り組んでいる。 ・ 3か月児健康診査の後、たくさんの方にあかちゃんとしょかんに寄ってもらうが、最近では夫婦で来られる方も多く、父親への啓発
--	--

	もできている。 (委員) ・お話を覚えて語るストーリーテリングでは、日本や世界の昔話や、愛知県や半田市の昔話、南吉の話も語る。 ・デジタルアーカイブで地域の昔話を探するとき、はんだ電子図書館は在勤・在学・在住という条件があったが、この条件は適用されるか質問したい。 (事務局) ・本図書館で所蔵のある半田の歴史や文化を知ることができる地域資料を公開しているデジタルアーカイブのみは、在勤・在学・在住という条件はなく、どなたでもご利用いただける。 (委員) ・かつて、半田の昔話も調べてお話をしたこともあるので活用していきたい。 ・4月にストーリーテリングの養成講座を開催して会員が増え、今度のとしょかんまつりにも参加いただく予定である。 (榊原会長) ・ストーリーテリングというお話を頭の中で整理して話すという手法は、自分のことを話すときにも役立つため、ぜひ子どもにも伝わると思う。 (委員) ・携帯で図書館の貸出券を提示できるのは、ふらっと寄れるのでとてもよくなったと思う。 ・亀崎図書館について、工夫をしてくれているとは思いますが、本が少ないように思う。 (委員) ・公民館職員ではあるが、個人的に放課後子ども教室「はんだキッズ」に携わっている。読み聞かせを行う際は、図書館の紙芝居や本を利用させてもらっている。去年は新美南吉シリーズで12回紙芝居の上演を行った。はんだキッズでは、紙芝居のほかにも本の読み聞かせも行っているので、資料2の図書館概要にあらわれない市民活動もあると思ってもらえると思う。 (委員) ・学校でのタブレット利用について、資料2の図書館概要の数字としても、電子書籍貸出しサービスの冊数が大幅に増えているが、朝の読書タイムでもタブレットを使っていて、はんだ電子図書館を使用している。 (委員) ・本の修理の部分では、みんなが借りて読んでくれるから破損するものであって、破損したら早めに持ってきてもらおうと修理もしっか
--	---

	りできる。返すときに「壊れてました」と言うと自分が壊したように思われるところから、なかなか自分から言ってもらえない。もう少し気軽に壊れていたと言えるような環境になるといい。 ・会員も人数がいるので、図書館に本の修理を依頼してもらえると言っているが、なかなか来ないのでもっと依頼してほしい。 (委員) ・本図書館だけでなく、国会国立図書館のダウンロードサービスへのデータ提供も行っており、全国の人に自分の声を聞いてもらえるところにやりがいやうれしさを感じる。 ・資料2の図書館概要の中で、文音会の朗読ボランティアと、栞の製本ボランティアはどこにあるか。 (事務局) ・資料2の15ページと24ページに記載がある。 (館長) ・文音会と栞は、障がい者サービスや本の修理など図書館の業務としてやることに対してご協力いただいているため、イベント等をまとめたところと表記場所が異なることをご理解ください。 (2) 令和7年度事業について (事務局) ・令和7年度事業について事務局より説明 (3) 図書館運営基本計画の策定について (事務局) ・図書館運営基本計画の策定について事務局より説明 ・協議事項 (1) 本の貸出し以外で「知識の拠点」として図書館ができること (館長) ・本の貸出し以外で「知識の拠点」として図書館ができることについて事務局より説明 (会長) ・今年度のとしょかんまつりで、ボランティアの提案が反映されたイベントがある。とてもすばらしいことで楽しみにしている。 ・公民館のように図書館以外で本が借りられるということもあるが、例えば、赤レンガ建物では、新美南吉の言葉と風景展という企画が7月にあり、図書館との連携やボランティア団体の活躍の場があると思っている。こういった視点でもみなさんいかがか。 (委員) ・自分の子どもが中学生で、使いやすい図書館は何かと考えたとき
--	--

に、受験勉強や学力向上のために利用するには、静かで涼しくとても良い環境だと思う。加えて、勉強に行き詰ったときにヒントをくれる、教えてくれる大人がいるといいと思う。

・外観を少し改修してみたり、ワークショップを開催したりと若者が行きたいと思える取組みもよいと思う。

（会長）

・中心市街地にあるまちづくりのための多機能拠点で、主には起業支援を行っているコココリン（半田市創造・連携・実践センター）で、ビジネス書の選書をするイベントがあり、図書館との連携について話をしたら調整することになった事例もある。言ってもできないこともあるが、言ってみてできることもあるので、みなさんからどんどん意見を言ってほしい。

（委員）

・住吉公民館では2年前には、図書スペースが2畳ほどしかなかったが、不要な備品をすべて撤去してスペースを作ったら、習字やそろばんなどの習い事の前後に子どもたちが集まるようになり、本を読んで過ごしている。そのため、今では、元々の大人の利用者から子どもまで幅広い世代に本を読んでもらっている。読んでもらえるような空間を増やすのも1つの手法だと思う。

・常滑市は図書館法に規定する図書館がなく、公民館がその役割をになっているが、公民館も指定管理制度での運用となっているので、本図書館のある半田市は恵まれている。

・公民館は、図書館のリサイクル本を活用して本の入替なども行っているが、昨年度はそれがなかったので今年度はお願いしたい。

（会長）

・クラシティの3Fのスペースに学生が利用しているスペースがあるが、夏休みになると学生が増えて一般の方が利用しづらくなるため、学生を違うところに移したいという意見もあって、難しい思いながらも、雁宿ホールに部屋があるので、そちらを利用してもらうようになると思う。公民館はそうした学生にとってとてもいいスペースになると思う。

（委員）

・住吉公民館のスペースは、学校帰りの学生さんの夜間利用も視野に入れて始めたことで、学生同士が一緒に勉強したりと今のところ順調に運用できている。

（館長）

・教えてくれる大人がいる、くつろげるスペースを作るといったアイデアはとても参考になる。

（会長）

・図書館から遠い所に住んでいる方に向けて何かないか。

	(委員) ・横川小学校区の方は、亀崎図書館を利用している人も多い。乙川にあるボランティア団体も亀崎図書館へ来ている。 (委員) ・本が好きな人は気持ちよく本が読みたい。ふかふかのソファに、飲み物、お菓子が飲食できるスペースがあるといいと思う。 ・本に興味を持ってもらいたい子どもを対象に考えると、子どもが行きたいと思ったら行ける距離、例えば小学校区で出前としゃかんまつりのようなイベントをやってもらいたい。 ・本に興味がある人は自然と来るが、本に興味がない人は、読み聞かせ等ではわざわざ家から来るにはハードルが高い。物を食べる講座等は子どもにとって魅力的な企画なので、食べ物づくりやものづくりと読み聞かせをセットにすると本の好きな人も増えていくと思う。子どもにとって身近に感じる企画が、身近な場所でかつ定期的にあるとよい。 ・3年生の公共施設見学に博物館はあるが図書館がない。図書館のバックヤードを子どもに見せてほしい。ぜひ博物館・図書館両方を見学できるようにしてほしい。 ・図書館は、立地的に不便なところがあるので、移動図書館など地域へ出向く図書館となってほしい。 ・コココリンでやっている異業種交流会の中心に本があるともっと盛り上がると思う。大人向けの本を中心とした交流会も面白い。 (館長) ・学校図書館と図書館の連携が大切である。これから建て替えを控える乙川東小学校の事例で、放課後児童クラブや地域交流施設とともに、地域開放型の学校図書館になったときの図書館との連携が特に大事になってくる。 (会長) ・そうしたときに、ここにいるボランティアの力が必ず必要になるが、ボランティア団体の皆さんは活躍の機会についてどうでしょうか。 (委員) ・おだんごぱんとしては、市民の方が特技を活かしてボランティア講師として活躍するゲストティーチャーの冊子から、学童保育などの要望に応えることもよくある。この冊子に乗っているゲストティーチャーについて冊子だけではわかりにくく、発表やワークショップ、トークイベントなどをやったりすると、地域の方と人をつなぐ機会にもなり、知的な交流も生まれると思う。 (会長) ・学校でも取り組めるとよい。
--	---

	(委員) ・学校教育と地域の生涯学習の違いがある。公民館のような放課後の部分や土日の部分で、ぜひ地域のみなさんで子どもたちを支えていただきたいと思う。 (委員) ・きりんの会では、亀崎公民館をお借りしてぐりとぐらのカステラづくりをやっていたが、オーブンの故障でできなくなったが、例えば学校の調理室など他の場所に移すことも1つの方法だと思った。 (委員) ・図書館は、これから高齢化社会なので大人も利用する。壮年期や高齢の大人向けのことも、重きを置いて考えていかないと「知識の拠点」として続いていかない。 (館長) ・大人向けの話でいうと、健康をキーワードにした「減塩」の講座から図書へ繋げていく企画も行っている。大人から子どもまで、障がいのある方、外国籍市民など、誰もが使える図書館を目指しているので、アイデアをいただきたい。 (委員) ・亀崎地域での学習ができるスペースがない。半田市全体で公民館の学習スペースなど公共施設として全体的に話し合いをしてもらいたい。
6. その他	(事務局) ・としょかんまつり、夏休みは図書館博物館へ行こうチラシの案内。 ・次回、第2回半田市図書館協議会は、令和7年12月3日(水)14時から半田市立図書館第1会議室で開催予定。 (委員) ・若者への周知に有効なSNSを図書館は活用しているか。 (事務局) ・X(旧ツイッター)で情報発信しているほか、市のLINE等も活用している。